

平成22年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討

第二回 検討会

日時：平成22年11月30日(火) 15:30～17:30
 場所：斜里町役場 2階 大会議場
 出席者：専門委員(6名)、北海道運輸局(北見運輸支局)、オホーツク総合振興局(環境生活課)、斜里町、ウトロ漁業協同組合、観光協会、知床ガイド協議会、知床アウトドアガイドセンター、知床小型観光船協議会
 事務局：環境省 釧路自然環境事務所、ウトロ自然保護官事務所

合意事項

議事録

発言者	発言内容	要点抽出
1. 開会		
事務局(則久氏)	挨拶	
事務局(中村氏)	資料の確認	
事務局(中村氏)	参加者の御紹介	
敷田委員(以下座長)	皆様お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今回2回目の開催に当たりましては、今年度7月以降に実際に実施した調査の結果報告と、その結果を受けて今後どのように進めていくかという議論していきたいと思っております。もとより、前回7月にご参加いただいた皆様はご承知と思いますが、それぞれの立場やお考えの違う方が集まっております。一見すると海域という複雑な利用が発生するところではマイナスのようには見えますが、新しい組み合わせが作られれば、非常にメリットも生ずる可能性も持っております。それは、先日開かれましたエコツーリズムの会議でも、まさにそのような話もいくつか出てきたところであります。このウトロ海域が、おそらくエコツーリズムや世界自然遺産地域でのレクリエーション利用を広く考えれば、非常に先行的なケースとなるということが、前回の会議でも環境省から話がありました。非常に難しい話になるのかな、という警戒は勿論あると思うんですけども、ここで皆さんに議論をして頂くことで、エコツーリズムの会議の際にも非常に参考にあるということは明らかであります。その中の一つが、ここで皆さんで協力して調査をしたり、対策をしたり、やって行こうということでありまして、これは基本的に環境省側から、これをやってくださいという話ではないので、決めていくのはメンバーの皆さんの合意という事になるうかと思っておりますので、これについては問題があれば、問題がある、逆にこういうふうにやりたいのだが、というお話があれば、それで結構だと思っておりますので、活発なご意見をお願いしたいと思います。	<p>開会にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回第2回目の検討会は今年度実施された各種の調査結果について報告し、それぞれの結果について皆さんからのご意見を頂き、今後どのように進めていくか議論していきたいと思っております。 ・エコツーリズムや世界自然遺産地域の利用と自然環境の保全を考える上での先行的なケースとして、今後の参考になる取組みです。 ・この取り組みは環境省が独断的に進めていくものではなく、基本的に参加している皆さんの提案・合意によって進んでいくものです。
座長	議事進行 全体説明	
2. 議事 検討会の背景・経緯(第1回検討会の内容確認)		
事務局(中村氏)	【前回の検討会の内容について内容説明および経過説明】 ・本検討会の目的・目標、位置づけ、進め方について確認	
座長	ありがとうございました。座長から一点だけ補足させていただきますと、検討会の位置づけという資料で適正利用エコツーリズム検討会議の中に、この検討会が組み込まれるというお話がありましたが、実は先日11月8日に開かれましたエコツーリズム検討会議、この中にもご参加の方が何人かいらっしゃいますが、そこで地域の中からお提案がございまして、海域に関するものもエコツーリズムの検討会議で総合的に扱って欲しいという議論が出ました。合意内容としては、一緒に扱おうということになりました。世界自然遺産区域におけるレクリエーション活動、つまり漁業や生活に関するものを除く部分については、エコツーリズムの検討会議で一括して扱おうという合意ができています。この検討会の位置づけの変更については、このことによる変更でありまして、これは7月の検討会の時には無かった部分です。 目標、目的に関しましては、今ほど、事務局から説明がありましたとおり、基本的には利用を認めよう、ただし利用をする場合には、保護とセットになった利用としていこう、その内容についてこの場で相談をしていこう、という進め方の説明になると思っております。 一回目の報告を含めた進め方に関して、ご意見ご質問があれば宜しくお願いします。 桜井委員。海域WGとの関係では、これでよろしいでしょうか？	<p>本検討会の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム検討会議の部会として位置付けられ、エコツーリズム戦略を策定する上での先駆的取組である。
桜井委員	はい。問題無いと思っております。	
座長	ほかにはいかがですか？特に無いようでしたら、前回から変更があった、この検討会の位置付け、エコツーリズム検討会議と連動するという点、最初にエコツーリズム戦略が出来たときには、この検討会はエコツーリズム検討会議の部会として改変されていくと、こちらの事業は3年という予定でございまして、恐らくこれが終了してからということになると思っておりますが、そういう理解で宜しくお願いします。ですから、皆さんが検討いただく事というのは、大きい意味で言いますと、このエコツーリズム検討会議に関係した事である、ということでございます。	
一同	特になし。	
座長	それでは、議題の1について、ご説明とご承認を頂いたということで、2番目の今期の調査実施報告について検討したいと思います。こちらについては、それぞれの調査結果の説明をしていただくということで、三つのパートに区切って説明していただきたいと思っております。適宜質疑応答を入れていきたいと思っております。それでは進行していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。	

3. ケイマフリ調査 調査結果報告		
バードリサーチ 福田氏	説明の前に、7月の検討会以降より、観光船の皆様には非常に協力的にいただきました。調査をしているときにはゆっくり走っていただいたりなど、ご協力頂きまして誠にありがとうございました。漁協さんにも、潜水調査などの件でお世話になりました。ありがとうございました。 今回の調査は、海鳥の知床における状況を調べるということで、何が解っているのか？何が解っていないのか？また何が得られたのか？何が得られていないのか？今後の課題について説明させていただきます。 【以下、調査結果の説明】 資料1	
座長	ありがとうございました。それでは、ここで一旦区切りたいと思います。何か意見など御座いましたらどうぞ。	
知床アウトドア ガイドセンター	潜水調査の水深は、だいたい20m以内ぐらいですか？	
バードリサーチ 福田氏	はい、20m弱ぐらいです。	
知床アウトドア ガイドセンター	ウミウとケイマフリでは餌場が被る所というのはあるのでしょうか？	
バードリサーチ 福田氏	イカナゴが多い所では被る事もあるとは思いますが、観察している中では、ウミウはウミウで餌を獲っている印象があります。もちろん少数が混じる事もあるとは思いますが。	
知床アウトドア ガイドセンター	うまく住み分けしているという事でしょうか？	
バードリサーチ 福田氏	住み分けしているのかというと・・・良く解からないところです。	
座長	他にはいかがでしょうか？無いようでしたら、また後程にも時間を取ってご質問やご意見を伺いますので、まずは先に進みたいと思います。 続いては、利用の方の調査という事で、関係者ヒヤリング調査と利用者動向調査の結果報告についてお願いします。	
3. 関係者ヒヤリング調査、利用者動向調査 調査結果報告		
調査受託者 (UDS栗林)	本事業の調査を受託させて頂きましたユニオンデータシステム株式会社 栗林と申します。私の方からは、本年度皆様に協力して頂き実施させて頂いた、関係者ヒヤリング調査の結果と、試験的に実施された観光船利用者を対象に利用者動向調査結果について報告させて頂きます。 【以下、調査結果の説明】 資料2、資料3	
座長	ありがとうございました。関係者ヒヤリング調査、利用者動向調査結果の報告でした。利用者動向調査は試験調査、試みの調査という事でご理解ください。何かご質問やご意見がある方はどうぞお願いします。	
座長	大型船利用者へのアンケートの配布を行った日の天候を教えてください。	
調査受託者 (UDS栗林)	3回の調査日のうち、9月25日は天気は良かったのですが、前日までの時化の影響で波が高く、コースを短縮して運行していた日でした。9月17日と10月16日は天候は良かったです。	
座長	寺崎委員。利用者動向調査の評価を少ししていただけないでしょうか？ご専門だと思われるので。	
寺崎委員	一つは大型観光船と小型観光船に乗られている方で、いわゆる大型化観光船は人に連れて来られた、という感じの回答と見ました。一方の小型観光船ではインターネットなどで事前に探して自分でコースを積極的に組まれている、という点で答え方が違って面白結果だなと感想を持ちました。 例えばQ5やQ7です。インターネット、旅行雑誌で見たと多い小型船の利用者については、風景も期待されていますが、野生動物への期待も選択率が高く、これはほぼクマに対するものと思われるのですが、それを楽しみにして来られているということが解かります。知床の観光資源としての魅力は何か？という点で、風景と野生動物が、ほぼ同数として期待されているという事が良く出ているなと思います。私はもっと風景に寄っているのかと思っていました。 もう一つは、乗る前の期待と、乗った後の感想を比較して見ると、クマが見られたらクマに寄るのようですが、大型船の結果からは海鳥についても、乗る前の期待は無くても、実際に見て良かったという回答も出ますので、このあたりも今後、情報の出し方と見せ方を工夫すると、観光対象としての価値も、思っていたよりもあるのではないかと思います。 それと、まとめ方に対するリクエストですが、複数回答になっているものは、構成比で表すよりも選択率で表した方が正しい見方が出来るかと思えます。	調査結果の評価 ・利用者動向調査の結果からは、大型船と小型船の利用者における興味対象の違いなど、興味深い結果が見られている。 ・海鳥についても観光対象としての可能性も、意外と有るのでは？ ・複数回答の設問では構成比ではなく選択率で表すべきである。
座長	ありがとうございました。これは来年度本格実施をする前の試験的な調査という事なのですが、具体的なスケジュールの話も出てきておりますし、議論も出来るかと思えますが、いかがでしょうか？	

中川委員	天候の話が御座いましたが、 船酔いの問題があると思う のですけれど、今回の結果の中には船酔いの割合とかは出てきて無かったが、意見の方には出てきている。これは来年度の課題になるのかもしれませんが、例えばクマが見れて船酔いを忘れるほど感激したとか、景色は良かったんだけど船酔いが酷くて二度と乗りたくないと思ったとか、そのあたりの船酔いをした人と船酔いをしなかった人でどう感じたかと、そんなところも調べてみて欲しいですね。	<p>設問に関する提案</p> <p>・船酔いに関する内容についても、もう少し詳しく調査しては？</p>
小型船協議会	端的に言うと、船に酔った方は「もう二度と乗らない」、「一生乗らない」って言いますよ。(一同笑)	
中川委員	それと事業者の方が、どの程度の波で船酔いが出るかという割合を見て、安全性以外にも、船が出るか出ないかの、ラインを引いて考えて頂きたいと思いました。その様な事も利用の面では、これから分析して解かると面白いのかなと思います。	
座長	小型船は特に、初めて乗った方が9割。また乗った人のほとんどが道外。事前に計画している人が殆どで、下船後の人に勧めたい割合も非常に高い。という事ですが、実際に運営してらっしゃる実感と一致していますか？違つとすればどのあたりが違いますか？また来年度あるとしたら、もっと確かめたい所などありますか？	<p>調査結果の評価</p> <p>・回答結果は、ある程度日頃私達が感じている内容と大きく違わない。</p> <p>・利用者に対しては観光的な話だけでなく、歴史的な話など、もっと伝えていけるように努力しないと、長く続けていくことは出来ないだろう。</p>
小型船協議会	実際、 それほど私達が思っている事と変わらない と思いますが、あとは何回来てもらっても楽しめるように我々も勉強して、もっともつと違つ物がたくさんあるという事を伝えていけるようにしないとイケないと思います。昔の人はこうだった、とか 観光の事ばかりではなく歴史的な話なども紹介していくような取り組み をしていかないと、我々としても長続きしていかないのかなという気がしています。 予約に関しては、個人的に予約して下さるお客様が多くなったということは、我々としてはとてもありがたい事だと思っています。	
桜井委員	予約はインターネットで出来るのですか？	
小型船協議会	はい、出来ます。	
桜井委員	個別に各社がそれぞれやられている訳ですね？	
小型船協議会	そうです。当社ですと予約状況とか、この時期は混んでいますよ、というような案内等をしています。	
桜井委員	季節別にこういう物が見れますよ、というようなカレンダーなどもあるんですか？	
小型船協議会	そこは会社によって様々な説明の仕方をしていると思いますが、例えば 私どもではクマの目撃情報を、たしか7~8年くらい前から記録しており 、5月や6月の情報とか、どの時期が一番見えやすいとか、何時の時間帯が見えやすいとか、そういう情報をインターネット上で提供してお客さんが自由に見る事が出来るようになっていきます。毎日船の船長さんが帰ってきたら、どこで何時に目撃したかを入力して、次のお客さんが見れるようなシステムが出来ています。 今こうやってケイマフリが話題になってきて、ケイマフリなどが大事だとなってきているので、 例えば、「なぜ近寄らないのか？」という事も徐々に、船の中では利用者に説明していかなければならないのかな 、と考えています。これだけ大きな会議で取り組んできているのに、「あれは知らない」というんじゃないですか？だから、そういう情報として、こういう会議が開かれている事や、保護の動物になってきている、という事などについては、前回の会議に出席してからは、 当社の担当者も、そういう情報も流す必要があるのではないかと、とうことで船頭さんたちには言ってます 。 資料を見ていると、ケイマフリが観光における対象になるのか、という点で個人としては理解に苦しむ部分も正直ありますが、今回、観光の専門家の方も多く来られていますので、こういうのもあっていいのかな、と思います。僕らにしてみたらケイマフリの件で小型観光船の影響、という所も出てきてるから、もう少し遠くに離れたらなければいけないのかと考えている部分もありますね。	<p>利用者への情報提供</p> <p>・熊の目撃情報などは、過去よりずっと記録しており、クマの見やすい季節や時間帯等の情報提供を行っている。</p> <p>保護に関する取り組みの動き</p> <p>・この取り組みに関する、利用者への情報提供も必要であると感じている。前回の検討会以降、実際の現場のスタッフなどの関心も高くなっている。</p>
桜井委員	すごく大事なところですね。インターネットの話の所も。	
座長	今お話しにあった件ですが、先ほど最初の議題でエコツアーリズムの会議の中で扱つということになっていることから、 特別ケイマフリだけを取り上げるという意味は、だんだん無くなってきていて 、全体の中でやりましょう、というふうになってきておりますので、その点のご心配は過度にされなくてもよろしいかと思われまふ。恐らく皆さんも同じようなご意向であると思います。	
小型船協議会	僕も、ケイマフリの内容だけで来ているのかな？と置いていたんですが、会議の内容もぜんぜん変わってきてるようで、僕なんかが出てきていいのかな、という感じがしてきています。	<p>テーマは海域全体へ</p> <p>・ケイマフリだけを取り上げるという検討会では、徐々に無くなってきており、それらを含めて、「海域全体の利用」がテーマとなっている。</p>
座長	恐らく海鳥の関係の皆さんもそうですけれども、ケイマフリをきっかけとして、全体のお話しも出来ればいいのかな、と思いますので、よろしいかと思われまふ。	

桜井委員	資料2の3ページ目からの遊漁船業者の方のヒアリング情報ですが、こういう情報は非常に大事です。これは 漁業者や遊漁船の方の実感として、長く海に出ていると、経験して自分で見て、そういう情報をたくさん持ってらっしゃると思います ので、そういう情報の掘起こしをもう少しやっていただくと、我々もそれに対して説明できる。この一つだけだと、なかなか難しいが、実感として、昔はイカナゴ、オオナゴがたくさんいて、イカナゴを喰えている鳥がいっぱいいた、という情報というのは、意外と重要なんです。 そういう情報の掘起こしをお願いしたい と思います。	<p>漁業者、遊漁船の情報が重要</p> <p>・漁業者や遊漁船業者の方々が日常的に目にしている光景や、感じている事、それらの情報は非常に重要。そのような情報の掘起こしを。</p>
小型船協議会	ただ漁師さんからの情報は限られると思います。何故かというケイマフリのいる範囲は狭く限られています。そのため、地元の漁師でも、ケイマフリが見える範囲で漁をしている漁師さんしか解からないと思います。今現在、ウトロ港からケイマフリのいるあたりまでのサケ定置網の数は何箇所あると思いますか？せいぜい3箇所です。その範囲で漁をしている漁師さんしか、ケイマフリの重要性や関心については解からないと思います。最近になって、ウトロ港周辺のケイマフリが多くなってきたが、昔、観光船を始めた頃はあまり見なかった。それでウトロ港からブユニ岬まで行く間にケイマフリが多くなったので、その間を走っていく漁師さんにも関心があるかもしれないが、多くの人達は沖合いに出てしまえばそれほど気にしていないのではないか。ケイマフリのいる限られた範囲を利用している漁師さんには話は聞けないと思う。	<p>ケイマフリ生息地と漁場の関係</p> <p>・ひとくりに漁業者といっても、漁業者の中でケイマフリの生息地内で操業されている方は、ほんの一部の漁業者のみである。</p>
座長	そうしますと、こういうような調査をする時は、定期的に走ってらっしゃる小型観光船さんの存在が重要になると思いますが、 来年度も調査にお付き合い願えますか？	<p>観光船事業者との協力関係</p> <p>・定期定期にケイマフリ生息地の近くを走る小型観光船の存在は重要と思われるので、来年度以降も協力をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・小型観光船協議会として協力は可能と思われる。</p>
小型船協議会	それは大丈夫だと思います。	
座長	試験的な動向調査と聞き取り調査でも、これだけの事が解かった訳ですから。是非お願いしたいと思います。	
小型船協議会	僕ら小型船協議会の中では、毎回ケイマフリの議題としてこの検討会の情報や話も出てきていますので、ケイマフリに関連して色々協力出来ないのかな、という気がしています。	
座長	わかりやすい例として、ケイマフリというお話しをして頂けると思うんですが、ケイマフリにそれほどこだわらなくて、出来れば海域の利用全体としてご協力頂ければと思います。	
事務局	今回遊漁船の方々へのヒアリングは何社ですか？	
調査受託者(UDS栗林)	遊漁船は3社です。	
桜井委員	遊漁の歴史は長いのですか？	
ウトロ漁協	秋さけ船釣りライセンスが始まってからは増えました。前はそんなにいませんでした。	
桜井委員	秋さけ船釣りライセンスが始まってから増えたんですね。	
ウトロ漁協	そうですね。それは間違いありません。	
座長	なるほど。時間も少々無くなって参りましたが、関連して他にありますか？	
観光協会	アンケート調査の結果なんですが、大型船と小型船の区分けでデータを出しているのですが、大型船も小型船も航路の種類がありますよね。岬航路と硫黄山航路でしょうか。たぶん 航路別にお客さんの意識や認識は絶対に変ってくるんじゃないか と思います。私はガイド会社をやっているが、私共のガイドツアーに参加されているお客さんのデータを取ると、船に乗る場合は8割くらいのお客さんが岬航路です。乗る航路によってはデータが違ってくると思いますので、そのあたりも考慮して頂ければと思います。	<p>航路による利用者意識の差</p> <p>・アンケート調査をする上で、観光船の航路(コース)によって利用者の意識は大きく異なっているものと思われるので、次回実施される際は考慮すべき。</p>
福田委員	見たい物が違ってくる ということですね。	

座長	恐らく来年度の実施調査では皆さんのご意見も頂きまして、協力もお願い出来るという事なので、環境省としても本格的にやっていたらと思います。ケイマフリに関する調査というよりも、 マーケティングのデータとしても重要 だと思いますので、できるだけ他のデータとしても使えるようなものを期待したいです。寺崎委員、マーケティングデータとして使えますよね？	<p>マーケティングデータとして有効</p> <p>・利用者動向調査はマーケティングのデータとしても利用が期待できる。内容をより充実して本格的に実施して頂きたい。</p>
寺崎委員	面白い物が出てくると思います。今、観光協会からも出て来ましたが、大型船と小型船に乗られた方が求めているものが、これだけの調査結果から見ても違っています。もっとデータを深めていくと、やはり知床全体を、 どうやって保全と利用の促進をしていくか 、という点において、やはり 奥まで入りたい人と、手前までの人 というのも、明らかにこの中에서도出てきていますから、そうやって求めてきているニーズと計画を立てていく上での利用の仕方という点で、深めていくと、非常に面白いデータになると思いますね。	
座長	ありがとうございました。皆さんが使えるデータですので、来年は、ちょっとまともにお金を掛けて頂いて…。野生動物のデータは陸上でたくさんとられているが、なかなか使える物が無い。これは観光業界の方が使えるのだから、税金をつぎ込んだ価値があると思います。	
事務局	ちなみに統計的に意味がある数字にしようとする、どのぐらいの母数を集める必要があるでしょうか？	<p>調査内容・手法について</p> <p>・利用者動向調査の調査方法や設問の内容については、慎重に設計する必要がある。</p>
座長	それは精度によります。何パーセントの誤差を見るかという事だと思いますし、恐らく実際に調査をする時は、どういうコースに乗ったかというのも含めて、対応させてデータを取る必要があります。 船に乗る前後の調査をしていますが、これは同じ人がどういうふうに変化したか？というチェックも必要 になってくると思います。(今回は 選択数の合計の割合だけを、それぞれ比較している) 慎重に設計してやる必要があると思います。	
小型船協議会	そういう部分では、個人のお客さんよりツアーのお客さんの方がデータは取りやすいと思います。	
座長	陸上と違って海の場合は、そこを経験したことをターゲットとして聞けるので非常に反応が正確です。陸上だと色々な物を見てしまっているの、どれか解からないけれども、これは海という事で、お客さんも切り分けて回答できる、正確に返ってくるという事がある。寺崎委員いかがですか？	<p>設問設定に関する提案</p> <p>・他の(陸上の)スポットを見られてから船に乗られた方と、そうでない方との比較など、何か条件別に比較するような見方も有効では？</p>
寺崎委員	そうですね。本当は検討会の範囲を超えるが、例えば海だけで見ても見えないものが、陸の、例えば知床五湖を歩いてきた人と同じ物をぶつけてみて、比較することによって特徴が出てきたりとか、何か比較したほうが特徴が出やすいと思う。	
座長	観光協会さんやガイド協議会さんが、どれだけ協力して頂けるか、という所も関係してきますが、船に乗船した前後の行動も合わせてチェックできるとか、他にどういう体験をして、この船に乗っているのかというのをトレースできるのか？、これはアンケートによるものなのか、抜き取りで聞き取り調査をやるのか？、解かりませんが、かなりマーケティングとしても重要なデータは取れると思います。そういうことで、来年は本気でやって頂けると成果が上がると思います。小型船協議会や各団体に提供できるデータですし。	
事務局	逆にまた、実際の調査では、皆さんにアンケートをお配りや回収で、協力して頂く事になると思いますので。	
座長	役に立つデータが取れそうですね。ありがとうございました。これについては、また最後の全体の意見交換のところで御興味のある方は御意見頂ければと思います。	
座長	それでは次の報告に参ります。次のガイドブックは案という事で皆さんにご紹介されるという事ですね。それではよろしくお願ひします。	
3. 海鳥のガイドブック作成について		
調査受託者(UDS栗林)	今年度の事業の中で作ろうとしている小冊子、海鳥をテーマとしたガイドブックにつきまして、 どういう物を作ろうとしているのか？ というコンセプトを書き出した物です。 【以下、ガイドブック案の説明】 資料4	
座長	ありがとうございました。これは皆さんにご意見を聞いてよろしいでしょうか？実際の制作はいつ頃を予定していますか？	
事務局	今年度に原稿の作成まで行い、来年は、それに微修正を加えて、印刷して配布することを考えています。アンケートなどとセットで配布できると良いかもしれませんが、またはアンケートの結果を踏まえて作ったほうが良いというのであれば、それを反映して配布する形になると思います。	
座長	いずれにしても、内容に変更はあるかもしれませんが事業としては今年度中にたどり着きたいということですね。これは誰に配布するんですか？	

事務局	観光船事業者ですとか、シーカヤック事業者ですとか、海域を利用する事業者の方にお渡しして、 利用者の皆様に海鳥の関心を持って頂こう という考えです。	
座長	だとすると、先ほどのアンケート調査の結果に基づいて、構成などを考え直していただけますか？ 利用するのが初めての人が9割ですし、道外から来る人が多い です、その人達に対してお配りするというパンフレットに切り替えていただけませんか？これはそうなっていませんか？全員同じに配る物に見えるので。	<p>素案に対する意見</p> <p>・海鳥のガイドブックは、初めて知床に来られる方や、道外から来られる方が多いことも踏まえて、その人たちに配ることを考えたパンフレットのものが良いのではないかと？</p> <p>・家電製品のパンフレットのような解りやすいものが良いのでは？</p>
事務局	そうしますと、今これは海鳥で作っていますが、アンケートの結果からするとクマなども入れるという事ですよ。	
座長	先頭は恐らく断崖と野生生物ですよ。アンケートの結果からすると、 殆どパンフレットに近い構成を取らないと、初めての人が9割ですから、関心もそのレベルだと思 うので、先頭はイメージ写真で、見開きでケイマフりはじめ色々な面白い物が見える、船に乗ったら楽しい体験が出来ますよ、というような内容の物が書いてあって、野生生物や海鳥のスペックは最後ですね。家電製品のパンフレットみたいな物を作らないと 初めての人には通じない ですね。恐らく、寺崎さん何かアイデアは無いですか？	
寺崎委員	そうですね。アメリカやオーストラリアの国立公園のビジターセンターでは、いくらでも手に取れるようなパンフレット(動植物ごとであったり、地形に関するものであったり)がありますが、私のような素人が見ても、「あっ物ってこういうふうに見るんだ」ということを、わかりやすく出ていますよね。あまり、図鑑だとか、教えてやろうというような 情報満載というよりも、初めての人にも鳥の見分け方が解かったりするような物 があると嬉しいなと思いました。	<p>解かりやすい物が良い</p> <p>・海外の国立公園などで入手できるパンフレットなども、とても解かり易く出ています。「情報満載的な物よりも始めての人にも解かりやすい物が良いだろう。</p>
事務局	そうですね。そういう物にしたいですね。	
寺崎委員	まあ時間や予算など、色々あると思いますが。	
座長	例えば、船酔いしている時に、読んでられないでしょうし、乗船の直前に読むのであれば、もう少し文字を減らすとか、船の選び方とか、こっちの船にはこういう特徴がある、こっちの船にはこういう特徴がある、 この船を解かりやすくイラストを入れていったほうが良い と思いますし、使い方も含めて ビジターセンターのような所で配るのか？乗船の直前にお渡しするのか、乗った後にお渡しするのか、 もう少し検討していただければと思いますが、いかがでしょうか？	<p>どんなタイミングで見る物か？対象者は？</p> <p>・乗船に際し見るものだとすれば、字を減らしてイラストで解かり易く作ることも必要。</p> <p>・どういう人達を対象にした物なのか？それによって内容を検討していただきたい。</p>
福田委員	観光客が、まずどこに入ってきて、どこに寄っていくのか、そこに置く事によって、大型船に乗るのか小型船に乗るのか、それとも知床五湖に行くのかを判断できるようなものが 必要な のか、乗船の直前に渡すものなのか、乗船した後に渡すものなのか、 それによって相当内容を変えていかなければならない と思う。	
調査受託者(UDS栗林)	そうですね。今回の案は、かなり海鳥に特化したガイドブックを想定していました。「もっと海鳥に興味を持ってください」というところがコンセプトとして始まっておりましてので。	<p>既存の海鳥パンフレットの活用</p> <p>・海鳥研究会では「知床の海鳥」というパンフレットを作成しているもので、うまく利用し合えるような物が作れば良いのでは？</p>
福田委員	2、3年前に、「 知床の海鳥 」というパンフレットを作っている。内容が同じだったら無駄とまでは言いませんが、それとうまくコラボするとか、 お互いうまく利用しあえたら、いいんじゃないか と思います。全体的なパンフレットがあって、それぞれ熊だとか海鳥だとかクジラだったり紹介されているものがあって、そんなふうになっていけば理想なのかなと思います。	
桜井委員	私も同じ意見で、これだと「知床ってこれだけの海鳥しかいないの？」って思ってしまいます。むしろ季節カレンダーがあって、船の航路図みたいなものがある、その中で先ほど言われてたような色んなものが見れるわけですよ。そういうものを カレンダーの中で常に見れるもの、この時期に見れるものが判る物があった方が いいと思います。また、来たら見れるというだけでなく、それらが インターネット上でも見れて、それを見た上で来てもらえるような方法も用意した方が いいと思います。	<p>カレンダー式の表現、Web上の情報提供</p> <p>・季節ごとに見れるものをカレンダー式に表したり、インターネットでも見れるような方法も検討すべきである。</p>
座長	そうですね。事前にインターネットで情報を見て来ている、というのが前提の作り方になるということですね。	
福田委員	その中で、我々がやっている海鳥の調査結果から、今の季節は、この鳥が見えるとか、その鳥を見るには、このコースの船がいいとか、全部関連しているといいと思います。	
調査受託者(UDS栗林)	熊や景観や海鳥などのテーマを総合して入れておいたパンフレットで、もう少し海鳥について詳しく知りたい方は、海鳥のパンフレットを見ていただくような形でしょうか？	
座長	そこまでいくと、この事業の予算の中では出来なくなってしまうのでしょうか？	<p>・予算の中でどこまで出来るのか？よく検討が必要。</p>
調査受託者(UDS栗林)	どこまで出来るのか？という話もありますね。	
座長	来年は、例えば小型船と大型船のお客様にもお配り頂けるような魅力のあるものが 必要 ですよ。それぞれの船のパンフレットがあって、それに加えて見て貰うわけですから、	<p>・事業者の方々が作られているパンフレットもあり、それらを踏まえた上でパンフレットの内容を考えるべきである。</p>

事務局	そうしましたら、試供版でお配りして、それで皆さんの反応を見て、さらに修正を加えるという方法もありますね。	・最初は利用者アンケートに連動して配布するような形でも良いのでは？
座長	そうですね。来年皆さんに協力してやっていただくアンケートと連動として、アンケートを配布したお客様には、これを特別に渡すぐらいでいいんじゃないでしょうか？	
小型船協議会	船の話しかしていないが、我々だけでなく、 ガイドさんやホテルの関係の人達にも使ってもらえるような物 にした方が良いと思います。	・ 観光船以外でも活用出来る物を ・観光船以外にも、 自然ガイドや宿泊施設などでも使えるような物 にした方が良いでしょう。
座長	今、使って頂けそうなご意見が出ましたが、どうでしょうか？	
観光協会	使えるかどうかは中身によるかもしれませんが、今お話を聞いていて、ページ数が何ページなるかによって、発行できる部数が変わってくると思うし、ページ数によって盛り込める中身も限られてくると思います。ですから、予算から追って行って、どこの人達に見てもらうかターゲットを絞って作っていく事が必要かと思います。私達も、何かを説明するパンフレットとかを貰う事があるんですが、部数が少ないと逆に配れないという事がある。そのあたりも考えて頂ければと思います。	・ 予算と発行部数、印刷費用
事務局	そうですね。あまり印刷コストがかかっても、というのはあるのですが、ある程度内容の充実したものにしたいと思っています。また、この先のご相談なのですが、まとまった部数で発注すると、単価はどんどん安くなってきます。そのため、初期の版下を作る部分はこちらで制作しますので、もし皆さんのご意見をいただいて良い物を作ることができたら、色んな 関係団体の皆さんにも一部負担していただきながら 、印刷すると、そんなに多くの負担でなくても多くの部数を流通させることができると思いますので、そういったやり方なども考えてみたいと思います。	・作成する部数が少ないと、皆さんに配りたくても配れない。発行部数については良く検討を。 ・印刷費用については関係団体の皆さんにも、それぞれ御負担していただくような事も、将来的には考えさせて頂きたい。
福田委員	私もパンフレットを作ってみて思うところは、観光協会さんの意見にもありましたが、助成金で作ったので、それほど部数が多く作れず、皆さんに配れないというところがありました。今も無くなってきているので、今回の中でうまく利用して貰えたらと思っています。	
アウトドアガイドセンター	興味のない人だと、捨てて終わりにになってしまうので、 ただ配っているだけだと、もったいない 、例えば船の中でシーズン中はずっと貼っておいておいたり、防水にしたりして 長期的に貼っておける様な物 もいいんじゃないでしょうか？それを自然ガイドの事業者にも回してもらえれば、ガイドがそれを持って、また、そのシーズンを活用出来るような、そんな使い方ができる物の方がいいと思います。	・ 配布以外の使用方法 ・配るだけではなく、どこかに設置したり、使い回せるような物でも良いのでは？(ポスターや説明用パネルなど)
座長	ありがとうございます。ガイドブックの作成に関しては皆さん色々意見をお持ちのようですね。それでは、事務局だけで作ってくれというのも重荷でしょうから、 今、おっしゃって頂いた皆様にも参加していただいて 、寺崎委員には監修をして頂いて…海外で色々ご覧になっているでしょうから。	・ 作成には皆さんの参加協力を ・今ご意見いただいた方々も是非一緒に参加して作成を進めて欲しい。
寺崎委員	監修まではいきませんが、そういう物があればご紹介する事は出来ると思います。	・少なくとも来年度のアンケート調査実施までには、何か配布できるものを用意して欲しい。
座長	出来れば実際に配布する小型船のどなたかと、松田さんの所あたりからご要望を頂いて、それを纏めるくらいの事の方が良いかと思いますが、	・今回の検討会で出た意見を元に再度検討し、関係者の皆様にも協力頂いて、原案作成を進めていく、寺崎委員にもご協力をお願いします。
事務局	まず、 今日戴いたご意見で修正した物を作ってみて、また皆さんにお見せして、意見を頂いて更に修正していく ということにしたいと思っています。今年度中に版下の完全完成まで行かないかもしれませんが、その場合でも試供版的に一度試してみたいと思います。	
座長	そうですね。少なくともアンケート配布の時までには、何かお配り出来る物を用意して欲しいと思います。	
事務局	また、反応を見て更に良くしていくという形で考えたいと思います。また、それをたくさん配るのが、お話しのように絞ってやっていくのか？ひょっとすると2種類出来るのかもしれませんが。	
座長	わかりました。それでは、ガイドブックは、事務局からの修正提案に応じまして、今年度中に原案作成くらいで、来年度のアンケートに間に合わせるように作るということにしたいと思います。つきましては素案を作った上で、もう一度小型船の関係者さんやガイドの関係者さんに打診していただき、寺崎委員には色々な情報提供もお願いしながら作成を進めて頂きたいと思っています。 以上で今年度の報告に関する説明を終わりますが、これに関していかがでしょうか？特に無ければ、次に来年度の計画についてお話し頂いて、次に全体についてやりとりをしたいと思います。	
一同	特になし。	
座長	それでは次の議題に参ります。	

4. 来年度事業計画

事務局	来年度の事業計画についてご説明させていただきます。今年度事業につきましては、皆様には大変ご協力を頂きました事について感謝申し上げます。誠にありがとうございました。来年度も具体的な動きが出て参りますので、またアイデアやご意見を頂いて進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。 【来年度計画について説明】 資料6	
座長	ありがとうございました。何か補足は御座いますか？	
事務局	実は来年度予算の原案も、実は出来ておりませんで、ここであまり議論しても、「じゃあどれだけ予算が付くんだ？」ということになってしまうのですが、基本的には先程ありましたマーケティング的な調査も展開していこうと思っておりますが、予算全体の配分の兼ね合いを見て決めていきたいと考えていますので、ひょっとすると全ては出来ないかもしれませんが、例えばこういう事をやろうとしたら、どういふふうにした方がいいとか、逆にこういう調査をやった方がよい、というようなご意見を頂けましたら、それを踏まえて具体的な来年度事業の計画を検討できますので、是非ご意見頂ければと思います。	
座長	ありがとうございました。今、事務局から説明ありましたが、何かご意見はありますか？	
観光協会	餌資源調査の魚類調査ですが、具体的にどういふふうにやるか決まっていな思いますが、 遊漁船をやっている方の協力を得たほうが良いのかな、と思います。 釣りをやっている方のお話を聞くと、日によって潮の流れなどでだいが魚のいる場所や深さが違って来るようですので、定量調査をやる上では、それなりの方法はありますが、こういう方々の協力を得たほうが 効果的な調査が出来る のかなと思ひました。	調査時の漁業者、遊漁船への協力依頼 ・餌資源調査では、漁業者や遊漁船事業者からも協力を得たほうが効果的な調査が実施できるのでは？
観光協会	もう一点、今までこういう事を行っているのか、希望があるかによりますが、 観光船をされている方が海鳥の事を話す上で、船内放送でのネタというか、そういうことを勉強する機会、知る機会は今までにあったのでしょうか？ また、ホテルのフロントでも、観光船などについて、お客様に聞かれる時があるんですけども、そういう方々に 海鳥の情報提供をしたことがあるのでしょうか、 もし希望があれば、福田さんの話などを聞く機会があっても良いのかなと思ひます。	
座長	今のお話いかがでしょうか？具体的にいうと ミニ講習会のようなもの でしょうか？	海鳥についての情報を地域の方々にも
観光協会	そのような形です。ただし、あまり内容ががたいと参加されない方が多くなると思ひますので、わりと参加しやすいような雰囲気のものが良いと思ひます。そのあたりは、小型船協会と色々お話ししながら進めて頂くと良いと思ひます。	・ホテルの従業員や地域の方々にも、鳥の話聞く機会があっても良いのでは？
小型船協議会	例えばホテルの中で時期によっては、 語り部だとかイベントをやっています。 一週間の中でテーマを決めてやっているのですが、例えばそこに福田さんが参加して、みんなに 今日は海鳥の話をしてもらうとか、 そういう取り組みをやってもらってもいいと思ひます。	・海域利用者と生態研究者とが、情報交換出来るような機会が、もっとあると良い。
福田委員	やっても構わないです。やっぱり僕らが見ていない部分で 観光船の方々が、毎日毎日見ているものもありますので、 それはもう、こちらが一方的に教えるっていうよりは、 意見交換出来る機会があれば良いかな と思ひます。	
座長	むしろ、そういうお互いが持っている情報などを意見交換して、 お客さんが見たり聞いたりした色々な事も含めて、お客様に伝えた方が良いのかな と思ひます。それぞれが持っている独自の情報というのが、なかなか他では伝わりにくい。現状は、こういう場があるから今は情報交換できますが。	
事務局	ホテルのフロントの方が、お客さんからどういふ質問を受けるか、逆に情報が無いので教えてほしいです。	
小型船協議会	例えば僕らが、インターネットなどでケイマフリの情報を流したとして、それで僕らの船に乗るお客さんがホテルに泊まったとします。その時に、もっとその情報を詳しく知りたくてホテルの人に聞いてみたら全然解らなかつた、というような事も考えられます。	・ホテルや他の宿泊施設の方々にも、海鳥や他の知床の生物、自然環境について、 さらに理解 してもらような事も必要だろう。
事務局	そういった意味では、ケイマフリもそうですし、陸上だと知床五湖の話もありますので、なにか地域全体で横断的にお互いに勉強し合う様な場を持ちたいですね。	
小型船協議会	今、この検討会だけが、すごく盛り上がりだしてどんどん情報を発信していたって、ウトロのお客さんを受け入れる側の人間が対応できないと困る、という考え方の中で進めていかなければならないということです。	
座長	そうですね。寺崎さん何かアイデアは無いでしょうか？	

寺崎委員	今仰ったように、ちょっとこの会議の枠を超えるのですが、トータルの中での観光としての海域利用をどういうふうにしていくか？という戦略が必要。	<p>観光船以外の方への、この取り組みの理解を</p> <p>・地域の皆さんにも、この取り組みについて理解しておいて欲しい。観光船だけが独自に進めていくような形になってしまうのは良くない。</p>
小型船協議会	このような取り組みを進めて行くには、僕ら以外にもウトロのホテルだとか民宿関係だとか、そういう旅館組合にも、そういう打診をしておかないと、まずいと思います。そうしないと、「観光船だけで勝手に進めて！」、という話しになりかねないので。	
座長	それはたぶん、エコツーリズムの協議会みたいな事業と、枠組みのような中でやった方が良いでしょうか。	
小型船協議会	それが今、エコツーでも、ちょっと拡大しているのです。もうパンフレット作るということは、全体的な問題から進めるべき。最終的にお客さんがそれで喜ぶことを考えるのであればいいと思う。	
座長	それは可能かと思えます。ここでこういう案が出たのであれば、もう、関連するところが多いのでエコツアーの協議会で、他の動物も含めて話をしましょうということが進められると思います。今、福田さんだけに話をしてもらっても良いと思うけど、それ以外も含めて、一度、観光協会やガイド協議会と相談の上でやった方が良いでしょうか。	<p>・他の動物も含め、関連団体とも協議して、このような企画(ミニ出前講座)を検討して欲しい。</p>
小型船協議会	例えば語り部をやっているホテルがあるので、福田さんに行ってもらって、その中のどこかの回に海鳥の話をしてもらえたら、ホテルの従業員の方も、「あっそういえば海鳥の事をやってるんだ」というふうにならないと、先にそういうの始めなかつたらまずいと思います。環境省の人にサポートしてもらおうなどして、やった方がいいと思う。	
座長	それでは、今いくつかご意見が出てきましたので、ケイマフリの事業で出来る部分と、それを超えてエコツーリズム全体で話をしたほうが良いというものもありますが、これは事務局に整理していただいて、出来るものは来年度に是非やって欲しいと思います。そのような取り組みをやっているということを見えるようにするのも重要な事だと思いますので、是非協力をお願いします。	
小型船協議会	観光船だけで進めていっても、みんなに考えてもらいたい話ですから、観光船だけ先走るとなると、他の業界関係とうまく連携できなくなってしまう。	<p>・この検討会で出来ること、エコツーリズム会議としてやるべきこと、これらの整理をして頂いて、このような企画も是非実現して欲しい。</p>
座長	ありがとうございます。それでは平成23年度は、予算の制約はあると思いますが、最初にお話があったようにマーケティングの調査を強化することと、ケイマフリはもちろんの事、それ以外のことも含めて、ミニ出前講座のような事も、これはエコツアーの枠組みも関連させて考えていただき、これは事務局検討事項ということにさせていただきたいと思えます。来年度の事業計画については、概ねこれで承頂いたということによろしいでしょうか？	
一同	異議なし。	<p>・来年度の事業内容については了承を頂いた。</p> <p>・実施方法や内容についての詳細は、さらに事務局での検討を重ねて欲しい。</p>
座長	それでは、最後になってしまいましたが、資料7からケイマフリについての情報提供という事で小城先生からご紹介がありますのでよろしくお願いします。	
5. ケイマフリに関する文献、記録などの紹介		
小城委員	[ケイマフリの情報のご紹介]	
座長	ありがとうございます。今的小城先生のお話に関して何が御座いましたらどうぞ。	
事務局	一番最後の資料ですが、これを見ると1995年には知床半島の西岸海域外が繁殖調査は無しということになっていますが、この時は調べる人がいなかったから、ということなんでしょうか？	
福田委員	結局、1960年代に黒田先生が調査した場所の記録はあるのですが、それ以外はなかなか無いです。天売とか、そういった場所はあるのですが、知床は来られていないので、過去の書物に出てくるのは、松浦武四郎の知床日誌に出てくるだけです。それ以外に口頭で聞いた話によると、網走の三角岩周辺で繁殖していたという情報はありますが、あとは地名で増毛町の雄冬のあたりにケマフレという場所がありますので、そこは地名からケイマフリがいたであろうと推測は出来ます。	<p>・ケイマフリに関する文献は乏しく、わからないことが多い。これまでの調査もあまり実施されていない。</p>
小型観光船	やはり、それを聞いていると海岸に特徴のある所でないと駄目だということですね。雄冬というところも断崖のある所ですね。青森は行った事はないですが、海岸に特徴がある所だというのは、私たち素人が見ても解りますので。	<p>・ケイマフリの生息環境としては、断崖という特徴的な地形のみに限られている。</p> <p>・生態調査の非常に難しい生き物である。</p>
福田委員	国後や択捉を見ていると、やはり知床のあの断崖のような所には、必ずケイマフリがいます。ですから、必ずそういう断崖に集まってくるんだな、というのがわかります。	
小城委員	断崖絶壁の所の崖垂にもものすごく入る。尻屋崎ではそういうところですが、3年ぐらい調査して難を追えたのは、やっと一巣でした。ケイマフリは神経質なので、調査はすごく難しいです。	
座長	他に御座いませんか？それでは以上で終了したいと思います。ありがとうございます。	
事務局	閉会	